



会長 山内 ユキ子 様

平成30年度社会福祉功労者
厚生労働大臣表彰受賞

おめでとうございます



受賞された山内ユキ子会長(右)
益々のご活躍をお祈り申し上げます。

ご協力ください

事業所様へ 求人情報提供のお願い

当連合会は無料職業紹介事業を行っております。ひとり親家庭・寡婦の方への求人情報を是非ご提供ください。

家庭生活支援員への登録・ご協力のお願い

当連合会では、ひとり親家庭・寡婦の方への生活援助や子育て支援を行っております。活動いただいた場合は手当の支給がございます。生活援助は介護関係の資格が必要です。子育て支援は、保育士や幼稚園教諭、看護師、ファミリーサポートセンターの提供会員等の資格が必要です。(お問い合わせ 017-735-4152)

ふれあい広場
(子ども食堂)やっています!

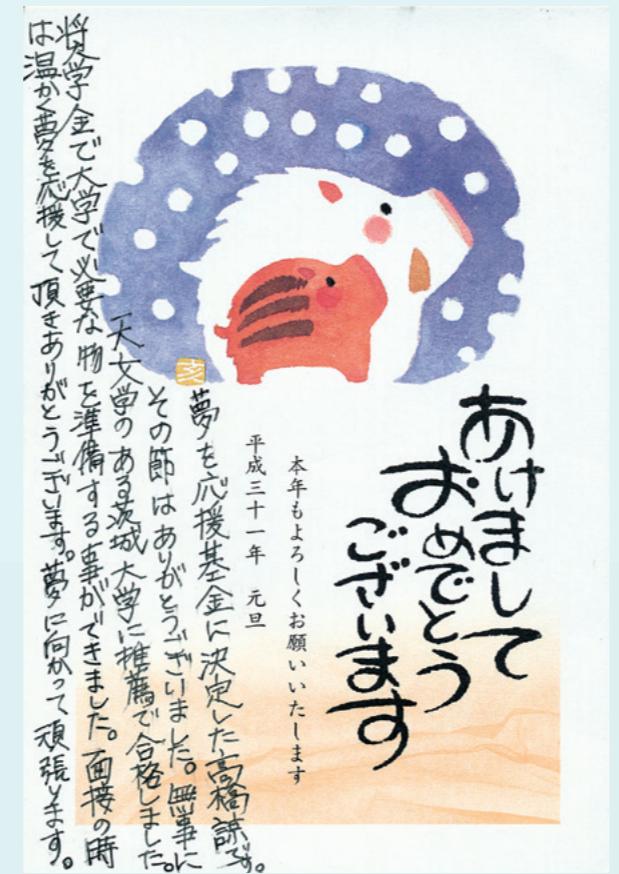
一昨年6月から始めた「ふれあい広場(子ども食堂)」は、青森市内で毎月1回土曜日の昼頃から開いております。毎月、栄養士の大谷享子先生、成田茂子先生、長尾律子先生にメニューを作っていただき、指導を受けながら主に寡婦会員が調理を行っております。昨年は、青森市民病院様よりサンマ蒲焼缶をいただき、蒲焼缶をアレンジした料理を提供しました。デザートには正覚寺様からいただいた果物などを活用し調理しております。また、青森市内の一般の方からお米をいただいたりと、たくさんの方々に支えられながら事業を行っております。



夢を応援基金「ひとり親家庭支援奨学金制度」

「夢を応援基金『ひとり親家庭支援奨学金制度』」は、平成29年より全国母子寡婦福祉団体協議会(全母子協)とローソングループ様の協力により、将来への夢を持ちながら就学に関して経済的に困難な生徒さんを対象として、返済不要の奨学金を月額3万円給付するもので、現在、全国で400名の生徒さんが給付を受けています。県内では高校1年生から高校3年生までの5名の方が奨学生となっております。

この度、奨学生の高橋諒君(弘前市)からうれしいお便りをいただきました。諒君の夢が実現することを心からお祈りしております。私達は、未来を担う子ども達をこれからも応援し続けていきます。



シングルマザー・シングルファザー・寡婦のみなさんへ

けんぼれんだより

VOL. 53 2019年 春号

第62回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会開催! 「こども塾・はは塾 plus ばば in 青森」同時開催!

平成30年度の東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会(ブロック大会)は青森県が担当し、昨年9月1日(土)、2日(日)、青森市のホテル青森において開催しました。(詳細2面)

そして、平成30年度の親子ふれあい交流会「こども塾・はは塾 plus ばば」は、他県開催のブロック大会ではなかなか参加できない母子・父子会員にも参加してもらうため、ブロック大会との併催にしようと前年から母子部が企画し実現しました。

子ども達は親と離れて、昭和大仏青龍寺様のご厚意で1泊2日のお寺修行体験をしました。小坊主さんとなってお勤めをしたり、真っ暗い境内で肝だめしをしたり、高い杉の木で木登り体験をし、2日間を満喫しました。お寺修行には、弘前大学の学生ボランティア6名に加わっていただき、始めは緊張の面持ちだった子ども達も、学生さん達との関わりにより笑顔あふれる有意義な時間を過ごすことができました。(3面にも掲載)



ご寄付、ご支援をいただきました

- 青森市民病院様 (五十音順)
- 青森商工会議所青年部様
- 伊藤園様
- おてらおやつクラブ様
- 正覚寺様
- 中矢進様
- 原田ベンディングサービス様
- マルハン浜田店様
- 匿名様(青森市内)



ありがとうございます

やもめのつぶやき
ひとり親家庭になったときの「就活」はとても大事なことですが、年齢を重ねるにつれ健康年齢も気になるもの。最近「終活」の方も気になり始めました。身辺整理をすることで、人生の終わりのためというより、自分自身の整理にもなるのでは!?少しずつ春の足音が近づいてくるこの時期から、断捨離と一緒に終活に取り組んでみるのも悪くはないのではないでしょうか。



トピックス

「児童扶養手当」が2ヶ月毎の支給に変わります

「児童扶養手当」は、2020年1月の支払いから奇数月に年6回、各2か月分が支払われます。

2019年8月分から10月分までの3ヶ月分は2019年11月に支払われます。これ以降は、1・3・5・7・9・11月の年6回支払われます。

未婚のひとり親の住民税軽減

2019年度税制改正で、未婚のひとり親で年収204万円以下の方は、配偶者と死別・離婚したひとり親と同様に住民税が非課税になります。また、2019年度は年収365万円以下の未婚のひとり親を対象に、寡婦控除の所得税軽減の相当額として、児童扶養手当が年間1万7500円増額されます。

未婚のひとり親家庭の支援については、「さらなる税制上の対応の要否などについて、2020年度税制改正において検討し、結論を得る。」とし、今後も制度の見直しに向けた協議を継続するそうです。

高等教育の無償化

2020年4月から、低所得層の学生の高等教育を国が支援します。対象となるのは住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生で、①授業料及び入学金の減免②給付型奨学金の支給の支援をします。これらの財源には2019年の消費税率引き上げによる增收分が充てられます。

★ホームページは
<https://aomori-kenboren.jimdo.com>

携帯電話、スマホは
QRコードからアクセスしてください



★LINEの友だち登録も
お待ちしております



★相談時間のご案内

月・水・金 8:30~17:15
火・木 8:30~20:00
第2、第4日 10:00~15:00
(祝日・年末年始を除く)
電話 017-774-3780

INDEX

- ・東北・北海道地区研修大会 ……2面
- ・親子ふれあい交流会 ……3面
- ・夢を応援基金・奨学生からのお便り他 ……4面

公益財団法人
青森県母子寡婦福祉連合会
青森市中央3丁目20-30
県民福祉プラザ3F
TEL 017-735-4152
FAX 017-735-4160
ホームページ
<https://aomori-kenboren.jimdo.com>

第62回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会

(第63回青森県母子寡婦福祉大会) 平成30年9月1日(土)、2日(日)／ホテル青森(青森市)

昨年の9月1日(土)、2日(日)、青森市のホテル青森において第62回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会を開催し、東北・北海道のひとり親家庭及び寡婦等約500名が一堂に会し、更なる福祉の向上を決議しました。開会式には三村知事、小野寺青森市長始めたくさんのご来賓にご出席いただきました。

1日目は厚労省子ども家庭局家庭福祉課の行政説明や研修討議が行われ、研修討議では各道県市からの発表があり、本県からは末竹秀子さんが教育費について発表しました。(末竹さんは10月27日の全国母子寡婦福祉研修大会でも発表しています。)夜の交流会では、青森ねぶた凱立会による迫力あるねぶた囃子に魅了され、県内外の参加者との楽しい交流の時間はありました。

2日目のオープニングアクトは指笛演奏家の塩谷彰宏氏による透き通った指笛と、ユニークなラーメン体

第62回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会 決議事項

平成30年度第62回東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会において、ひとり親家庭及び寡婦の更なる福祉向上を図るため、次の事項の実現を国及び地方自治体に強く要望します。

1. 平成25年3月に施行された「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき、雇用条件の改善のため、より積極的な就業支援策が講じられるよう要望します。
1. ひとり親家庭が安心して子育てと就業の両立ができるよう、安定した居住の確保、保育所への待機児童の解消、放課後児童クラブ等への優先入所と利用時間の拡大など、子育て支援と生活環境の一層の充実を要望します。
1. 児童扶養手当の同居親族の所得条件の緩和と、第2子以降の子どもに対する手当がさらに充実され、母子家庭の母と子どもたちが将来に希望が持てるような施策を講じられるよう要望します。
1. 親の経済状況により、子どもが進学の夢を絶たれることのないよう教育の無償化を図るなどの、子どもの将来への夢をつなぐことができる施策を講じられるよう要望します。
1. 養育費の支払い履行に向けて、義務を果たすための公的立替払制度の整備と養育費を支払った親の税の控除を要望します。
1. 自動販売機の設置や売店の運営管理については、「母子家庭の母及び父子家庭の父の就業の支援に関する特別措置法」に基づき優先して母子・父子寡婦福祉団体に発注されるよう要望します。又事業主に対しても発注の働きかけをされるよう要望します。
1. 西日本豪雨により被災された方々の一日も早い生活再建のための支援と施策の充実強化と共に、東日本大震災及び熊本地震等各地の災害により、長期にわたる避難生活を余儀なくされている子どもや寡婦に対し、心と体のケアなど総合的な支援対策の充実強化を要望します。

操に会場は大盛り上がりとなりました。講演では平川市のこども園あらやの園長先生を務められながら、女優や声優としても活躍されている斎藤千恵子氏に「あなたらしく私らしく」と題しお話しいただきました。40代から志した声優・女優への歩みに、いくつになってからでも前へ進むことができると勇気をもらいました。大会宣言と決議は、青森県の母子部長、母子部副部長が読み上げ採択され、大会は盛会のうちに終了しました。

本県での東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会の開催にあたりご支援・ご協力を賜りましたすべての皆様に感謝申し上げます。

来年度の東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会は山形県で9月7日(土)と8日(日)に開催します。青森県母子寡婦福祉大会は五所川原市のオルテンシアで8月31日(土)に開催します。



平成30年度 親子ふれあい交流会 こども塾・はは塾 plus ばば in 青森

平成30年9月1日(土)、2日(日)
場所: 青龍寺、ホテル青森(青森市)
参加者: 親19名、子ども21名

しゆぎょう体験をして

青森市 R・I

私はしゆぎょう体験で、おぼうさんがいたことがあります。ゆうきさんと友達になつてながつたことは、きもだめです。こわくて一人でいくときはよかつたけど、木のぼり体験は、二回もできよかったです。おぼうさんはすごいなと思いました。だけどとても楽ししかったです。そして、そうじやざせんなどを毎日やつていました。木のぼりのときにはかねが鳴ってめっちゃびっくりしていました。だけどとても楽ししかったです。そしておぼうさんがたいへんなことをしていることは、いまだにわかりました。そして友達ができるのは、高くまぼうさんがたいへんなことを学びました。大仏の足をくんでいるところに入ったときに名前の書いた板がたくさんあったのには、びっくりしたけど上を見るとおもしろかったです。お寺では、いろいろなことができるようになりました。お寺では、いろいろなことを学んで、いつもはできない体験をすることが楽しかったし、保健大学の人以外の人ともなかなか学んで体験して、また楽しい思い出を作りました。また、こういうきかいがあったなら、わたしは、またたくさんの友達を作つてたくさんよくなれたのでうれしかったです。また、いろんな人たちと行きたいと思いました。



平成30年度全国母子寡婦福祉研修大会

平成30年10月27日(土)、28日(日)／岡山プラザホテル

今年度の全国大会は西日本豪雨によって被災された岡山県岡山市が開催地となり、全国各地から約800名が参加しました。研修討議の発表では、将来を見据え高等職業訓練給付費を受けながら准看護師から看護師へステップアップし、親子ともに前向きに働くお母さんや、「夢を応援基金 ひとり親家庭奨学金制度」を利用し夢に向かって頑張る子と、それを支えるお母さんの体験等が発表されました。

本県からは東北・北海道地区母子寡婦福祉研修大会でも発表した末竹秀子さんが教育費について発表しました。末竹さんは大学に進学した息子さんのために工面した借入金や学費について具体的な金額を示し、子ども達の将来の夢が断たれることのないよう、親が不安なく子育てできるよう「教育の無償化」等について訴えました。

